

## 日本経済新聞

## 欧州安定メカニズム総裁「あと2年で問題ほぼ解決」

2012/10/13 22:56 | 日本経済新聞 電子版

資金繰り難に陥った欧州各国を支援する欧州安定メカニズム(ESM)が8日、発足した。来日したレグリング総裁は日本経済新聞の取材に応じ、仮にスペインの追加支援を実施したとしても十分な支援能力があると強調。南欧諸国が痛みを伴う構造改革に取り組んでいると説明し、「あと2年もすれば問題はほぼ解決する」と語った。レグリング氏の思惑通りに信用不安が収まるかは南欧諸国の改革の進捗次第となる。(聞き手はベルリン支局 赤川省吾)

——南欧諸国の現状をどう見えていますか。

「経済調整は軌道に乗っている。2008～09年に比べて財政赤字は2分の1から3分の1程度にまで減り、経常赤字も消滅した。成長が落ち込んで輸入が減ったという事情もあるが、多くの国で輸出が増えている」

——ユーロ安が輸出を押し上げただけではいいのですか。

「それだけではない。輸出の半分はユーロ圏向けで為替相場の影響は受けない。輸出競争力が改善したことが効いている」

——労働コストが下がっているということでしょうか。

「通貨ユーロが誕生した99年から08年にかけて南欧はドイツよりも5割増しの勢いで労働コストが上昇した。しかし、傾向は変わった。南欧では労働コストが下がり、ドイツでは若干上昇したため、乖離(かいり)幅が50%から20%に縮んだ。経済調整は終わっていないが、半分まではきた。あと2年もすれば財政赤字や競争力の欠如などの問題はほぼ解決できる。国民にはさらに痛みを強いることになり、簡単ではないが、厳しい調整過程はやがて終わる」

「ユーロ圏で引き続き問題なのは、金融システムだ。銀行はお金を金融市場でやりとりしなくなり、余剰資金が生まれれば欧州中央銀行(ECB)に預けている。お金が必要になればECBから調達している。それゆえにECBの資産が膨らんでおり、これが問題だ」

——なぜ南欧の信用回復が遅れているのでしょうか。

「金融市場はユーロ圏が崩壊する可能性があるを受け止めている。市場にとっては、ほんとうにそうなるか、それが事実かどうかは関係ない。たとえその可能性がごく小さなものだった



クラウス・レグリング ESM総裁

たとしても不安になる。それが南欧では政府にも、民間企業にも高い金利となって跳ね返る」

——欧州版の国際通貨基金(IMF)を作るという構想は09年のギリシャ不安が起きた直後からあった。ESMはようやく誕生したが、対策が後手後手に回っている印象がある。

「ESMの設立には、もともと1年半かかると思われていたが、9カ月しかかかっていない。ユーロ圏には17カ国あり、大きな決断をしなければならないときは民主的な手続きのための時間が必要だ。政府だけでなく、議会の決議もいるし、国民的な理解も不可欠となる」

——ESMの支援枠は7000億ユーロで十分か

「7000億ユーロというのはギリシャ、ポルトガル、アイルランドの支援を担っている欧州金融安定金(EFSF)とESMの合計だ。ESMの単独での支援枠は5000億だ。このうち最大1000億ユーロがスペインの銀行増資に使われることになっていたが、それは当初見込みの半分程度にとどまるだろう。おそらく4500億ユーロの枠が残る。足りないという指摘は適切ではない」

——スペインの財政的な追加支援にも堪えられるのか？

「もちろんだ。現時点では支援しなくても済むと思っているが必要であれば実施する」

——銀行に直接、資本注入する機能を加えるという議論があります。

「欧州連合(EU)の首脳会議では政府を経由せずに、銀行に直接資本注入できるかどうか議論した。ECBに銀行監督を一元化することが条件で、それが実現したかどうかはユーロ圏の財務相が判断する。その銀行監督の一元化については複雑な作業が必要となるため、13年1月という当初計画より遅れるものの、実現するだろう」

——直接注入が実現すれば、どんな利点がありますか。

「(政府を経由しないので)政府の債務残高が増えない。債務危機と金融システム不安を切り離すことができると期待されている」 ——肝心の銀行監督の一元化ではユーロ圏内で方向性を巡って意見の相違があります。

「17カ国もあるため、大きなプロジェクトでは最初は意見が食い違うことは当たり前だ。でも最終的には、意見集約できる」

——スペインの追加的な財政支援(全面支援)が必要になるといいますか。

「予断を与えたくない。金融市場がそう期待しているのはわかるが、国債利回りはここ数カ月で大きく低下した。現時点は自力で資金調達できる」

——日本にはどんなことを期待していますか

「ESMが発行する債券はアジアの投資家にも魅力的だと思う。トリプルAの格付けで利回りにも魅力があるだろう」

——フランスがトリプルAを失ったら、ESM債も危ういのではないですか。

「2つの主要格付け会社から引き続き最上位の格付けを取得している。米スタンダード・アンド・プアーズ(S&P)は仏・オーストリアを引き下げたが、市場には影響していない。しかもESMは800億ユーロの払い込み資本もあり、各国の格付けが影響したEFSFと異なるという面もある」

---

**NIKKEI** Copyright © 2012 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。